第22回木材活用コンクール

木の良さ活かし、可能性を追求

4部門20作品を表彰

木材活用コンクール（https://mokusei.net/jkc/）は、木材の新たな利用、普及の可能性を探ることを目的に開催している。22回目となった今回、日本木青連では木の伝統と文化を次世代につなぐため、木の良さを生かし、従来にない新しい木材の利用や見せ方、工法などを用いた木材の可能性を追求する作品を募った。全国から173作品の応募があり、このなかから4部門20作品を最優秀賞ほかに選んだ。日本木青連の全国会員愛知大会では表彰式、作品説明会を開催した。

最優秀賞／農林水産大臣賞の「大船渡消防署住田分署」

①木造及び混構造建築の300平方㍍超、②同300平方㍍以下、③木質空間（インテリア・エクステリア木質化）、④木製品といった①～③以外の創造的木材活用事例の4部門で作品を募り、設計者、施工者ほかからの応募があった。3月に東京都で行った審査会では一次審査を通過した87作品について審査したが、年々作品のレベルが高くなっていることもあり、審査は難航したという。

最優秀賞／農林水産大臣賞に選ばれた「大船渡消防署住田分署」（岩手県住田町、SALHAUS）は、消防署を木造で実現したユニークさや伝統的なヌキ構造を現代的な構法として再構築したことが高く評価された。

同／国土交通大臣賞に選ばれた岩手県の大槌町文化交流センター「おしゃっち」（大槌町、前田・近代・中居・TOC異業種特定建設共同企業体）は、線材の特徴を生かした木材のバラエティ豊かな組み合わせで構成された3階建ての公共建築物だ。